

「どうすれば私たちの生ける神といつも共にいることができるか」

ヘブル 10:19-25(新改訳聖書2017)

19 こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

20 イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

21 また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、

22 心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

23 約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

24 また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。

25 ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合ひましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

ともに礼拝し、聖書から学べることを感謝しております。

きょうの題は、「どうすれば私たちの生ける神といつも共にいることができるか」です。

クリスチャンは、イエスを信じると、自分の罪はイエスの血によってすでに赦されていて、死んだ瞬間に天国に行くことができると、はっきりした確信を持っています。これは、他の宗教の人々には見ることができませんでした。今まで、いろんな宗教の人々と話したことがありますが、彼らが言うのは、精々「この宗教を続けていたら、私は救われると、期待しています。」クリスチャンは天に行けます。しかしきょうの聖書箇所は、もう一歩私たちを前に進めてくれます。クリスチャンは、神の聖所、神がおられるところに、今、入ることができると確信を持っています。それはキリストの血によってです。

祈りましょう。

父なる神様、私たちがイエスを救い主と信じた時に救ってくださり、ありがとうございます。そして、私たちの罪が赦されただけでなく、あなたは、私たちがいつでもあなたと共にいることを願っておられます。私たちの目を開いてくださり、あなたのみことばを理解できるように助けてください。そして、私たちがあなたの近くに共にいることを、あなたがどんなに望んでおられるかを教えてください。イエスの名によって祈ります。アーメン。

どうすれば、私たちが、神と共にいることができるでしょう？

A. 私たちは大胆に聖所に入ることができます 19節

ヘブル 10:19

こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

私たちは、神の聖所に入る確信(大胆さ)を持っていますか？

神と親しい交わりを持つのは、私たちにとって、なぜふさわしいことなのでしょう？

A.1. 人間とは何か？

神が人間を創られた時に、

創世記 1:26-27

26 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、

海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」

27 神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。

神が人間を造られた時に、「われわれのかたちとして」、「ご自身のかたちとして」、「神のかたちとして」、「われわれの似姿に」と4回も語られている。これは、私たち人間が、神のかたちにとっても近いものとして造られたことを意味しています。神は、創造主であり、私たちは被造物です。ですから、神と人間の間には、非常に大きな違いがあるはずです。しかし、神は、私たち人間を神ご自身にとっても似た者に造られました。

聖書では、大切なことは繰り返し語られて強調されています。聖書の中で一番重要な事は何でしょう。もちろん、神の御子、イエス・キリストです。では、聖書はイエス・キリストの物語を何回語っているでしょうか？ 4回です。マタイ、マルコ、ルカ、ヨハネの福音書ですね。イエスの物語は、強調し過ぎるということのない大事なものです。同じように、「人間は神のかたちに造られた」ということも、神は聖書で4回語って強調しておられます。ですから、神は、「人間は神の形に造られた」ということに、最上級の強調をしておられます。ですから、私たちがどのくらい神に似ているかというその程度は、私たちが考えているよりはるかに大きなはずです。ですから、「私たちは本当に神のかたちに造られた」と言うことができますと思います。

では、なぜ神は、私たちをとっても神に似たものに造られたのでしょうか？

それは、神が私たちと親しい豊かな交わりを持ちたいと思われたからに違いありません。

では、私たち人間に、神が与えられた一番最初の戒めは何でしょう？

A.2. 人間のための最初の戒め

創世記 2:9

神である主は、その土地に、見るからに好ましく、食べるのに良いすべての木を、そして、園の中央にいのちの木を、また善悪の知識の木を生えさせた。

この2本の木には、とても深い意味があるに違いありません。

最初の戒めは、このうちの1本についてです。

創世記 2:16-17

16 神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。

17 しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。」

この重要な2本の木は、何を意味しているのでしょうか？

「いのちの木」 神への信頼、神との交わりによって、神ご自身のいのちで生きる。

「善悪の知識の木」 自分が善悪を認識して、正しく適切に生きる。
神と交わる必要がない。神のいのちがない。

人となられたイエスは、ご自身と父との関係について説明しておられます。

A.3. イエスと父の関係

ヨハネ 14:10

わたしが父のうちにいて、父がわたしのうちにいらっしゃることを、信じていないのですか。わたしがあな

たがたに言うことばは、自分から話しているのではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざを行っておられるのです。

イエスは神です。しかし、イエスは地上での働きを、ご自身の権威や力でされませんでした。イエスは常にその働きを、父と一つになってされました。

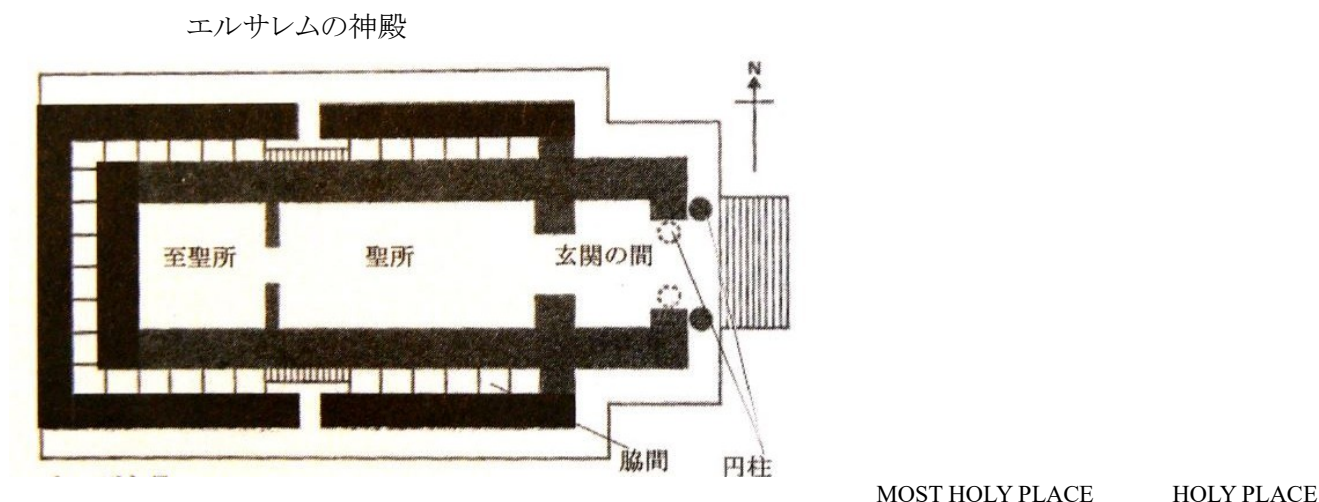
神は、私たち人間にも、同じことを願っておられます。

神は、このためにも、私たちをご自身のかたちに造られました。神は、私たちがいつも神との交わりによって生きることを願っておられます。

B. イエスがいのちの道を開かれた 20-21節

ヘブル 10:20

イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。



この図は、旧約時代のエルサレムの神殿です。神はイスラエルの民が神殿を造り、神がそこにご自身の臨在を地上で現すことを望まれました。

これは人間が造った神々を拝む場所ではありません。京都市には、4,800の仏教寺院や神社があります。これは人間が造った偶像や歴史上の有力者などを拝む場所です。この世界とすべてのものを創られた真の神を礼拝する場所ではありません。

エルサレムの神殿の中央部分は、「聖所」と呼ばれます。ここで祭司たちが、日々神に仕え、礼拝します。左側の一番奥は、「至聖所」です。ここでは、神がその臨在と聖さを現されます。人が入ることはできませんが、1年に1度だけ、大祭司が、自分の罪を覆うための雄牛と雄やぎの血を携えて入りました。人間には罪があります。人間は神がおられるところに入ることはできません。人間が神の聖さに出会うなら、その瞬間に死ななければなりません。ですから、分厚いカーテンが至聖所と聖所の間を隔てていました。

しかし、イエスが十字架で、道を開かれました。

マルコ 15:37-38

37 しかし、イエスは大声をあげて、息を引き取られた。
38 すると、神殿の幕が上から下まで真っ二つに裂けた。

イエスが私たちのために死なれたので、イエスの血のゆえに、私たちクリスチャンは自由に神の前に出ることができます。

旧約時代には、祭司たちが垂れ幕の外側で、定められた通りに儀式を行っていました。しかし、今では、垂れ幕は取り去られ、すべてのクリスチャンは神の臨在の中に入ることができます。これが、「新しい生ける道」です。

神は私たちがご自身のそばにいたいことを望んでおられます。

エルサレムの神殿は、神がおられる天を示す、一時的な模型に過ぎません。私たちは今、エルサレムの神殿の至聖所に入ることができるのではなく、神がおられる天の聖所そのものに入ることができます。

イエスの十字架の後では、神とクリスチャンを隔てる垂れ幕はもう必要ありません。

あなたは、いつもご自身を神の聖所に置いておられますか。

あるいは、旧約の祭司のように、垂れ幕の外で神に仕えておられますか。

ヘブル 10:21

また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、

イエスは、私たちの祭司です。祭司は、礼拝者と神との間の障害を取り除く役割をします。イエスは、いつも、私たちのどんな罪であれ、弱さであれ、取り除いてくださいます。

ローマ 8:34

だれが、私たちを罪ありとするのですか。死んでくださった方、いや、よみがえられた方であるキリスト・イエスが、神の右の座に着き、しかも私たちのために、とりなしていてくださるのです。

イエスは、今何をしておられるのでしょうか。いつも私たちの罪を、神の右の座でとりなしておられます。

C. 神は私たちに3つのことを願っておられる 22－25節

今までのところから、3つの大切な勧めが出てきます。

C.1. 神に近づこう

ヘブル 10:22

心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

ここでは、神が私たちを「邪悪な良心」からきよめてくださるとあります。「良心」とは何でしょう。

良心 = 自分の判断で、良いと思う心

良心とは、自分の行いの感覚に従うことです。ですから、こんな感じです。「私はこれを正しくやった。だから私には問題がない。」しかし、この箇所では、良心がしばしば邪悪であると教えています。私が家内とけんかをしてしまった時は、「私は正しい」と思っています。しかし、「神様の意見は違うようだ」と感じてきます。祈ると、神様は、私が間違いだと示してくださいます。そして私が謝るということになります。

私たちが神に近づくときに、神はどんな問題であれ、私たちをきよめてくださいます。

Iヨハネ 1:7

もし私たちが、神が光の中におられるように、光の中を歩んでいるなら、互いに交わりを持ち、御子イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。

光の中を歩くというのは、私たちの側にとっては、とても楽なことです。心を開いて、「神様、どうぞ私を見てください。私を調べてください。そしてすべての悪から私をきよめてください」と言えばいいんです。キリストは私たちのすべての罪のために死んでくださいました。ですから、イエスの血がすべての罪から私たちをきよめてくださいます。

C.2. 動揺しないでしっかりと希望を告白しよう

ヘブル 10:23

約束してくださった方は真実な方ですから、私たちは動揺しないで、しっかりと希望を告白し続けようではありませんか。

私たちは、何を告白するのでしょうか。

神は真実な方です。私たちを天国に入れてくださるというだけでなく、私たちを常に神ご自身といっしょにおらせてくださいます。そして毎日の生活の細かいところにまで、神は真実な方です。

東京で働いている私たちの娘が、動脈瘤の破裂で、脳内出血を起こしたことは、前にもお話ししました。娘は入院しました。これは2年前のことです。娘は1カ月半病院にいました。私は、たいていは家内といっしょでしたが、東京に行きました。手術のために3回、さらに、主治医の説明を聞いて承諾書にサインをするためなどで、全部で8回、ひと月半の間に東京に行かなければなりませんでした。

私のスケジュールは、この時期、毎週のメッセージの準備と神学校で1クラスを教えることで、すでにいっぱいでした。ですから、急に超多忙になってしまいました。しかし、神からの平安と確信がいつも私の心にありました。神に感謝です。ですから、全く心配する必要がありませんでした。「私がすべきことは何でも、すべて神がさせてくださる。だから私は、一つ一つ神に従っていくだけ。神様は完全な方だから」と思っていました。私の友人の牧師が、「日本人の女性とインド人の男性の国際カップルのために結婚式を司式して欲しい」と依頼してきました。私は、それが神の御心であるという平安がありましたので、お受けしました。

すべてのことが、私のスケジュールの中で、完全にフィットしていきました。私は神の導きに従うだけです。神はすべてのものを御手の中で支配しておられますから。神に従うことは何と楽なことかと思いました。

神は真実な方ですから、私たちが神の真実さの中に立つとき、私たちの希望は揺るぎません。神は私たちの希望を支え、守ってくださいます。私たちが自分自身を神の真実な御手の中に置くことになります。そして神は、私たちを安全に、確かに守り導いてくださいます。

C.3. 互いに愛と善行を促そう 24－25節

ヘブル 10:24

また、愛と善行を促すために、互いに注意を払おうではありませんか。

私たちはクリスチャンでしたら、愛と善行を行うべきです。でも、「愛と善行をするようにしましょう」と言っても、実際にそのように行っていくのは難しいでしょう。しかし、神が私たちの中で働いてくださるなら、それは決して難しくありません。

数年前から、私は夕方に軽いジョギングを30分くらいするようにしています。その時に小さなポリ袋とゴミをつかむトングを持って行きます。それは道端や公園に落ちているゴミを拾うためです。

今月のことですが、いつものように公園に行きますと、若者が一人、タバコを吸いながら私の方に来ま

す。そして、「今日、二十歳の誕生日や」と言います。私が、「だからタバコを吸ってるの」と言いますと、彼は、「もうタバコをやめる」と言います。そして、ポケットからタバコの箱を取り出して、「これが私の最後のタバコの箱になる。うちでは家族が皆タバコを吸ってるから、私も12歳の時から吸っていた。」そこで、私は、「タバコを吸わないのはとても良いことやね。もしタバコを吸ったら、一生の間に、車を何台も買えるお金を燃やしてしまうことになるよね」と言いました。私は彼を知りませんし、話をしたこともありませんでした。でも彼は、その時まで、私が空き缶や、ペットボトルや、そして特に吸殻を拾っているのを見ていたことでしょう。彼は、自分の吸殻を、一生の間、ずっと誰かに拾わせるのは良くない、と思ったのかもしれませんが。私はうれしかったです。神様が私を用いて、誰かが、何かの良いことをするように働いてくださったと思ったからです。

同じ週のことでした。別の公園に行くと、4, 5人の小学生の男の子たちが、インスタントの焼きそばを食べていました。一つのトレイからいっしょに箸を使ってです。焼きそばもほとんど終わりかけでした。私が彼らの方に行くと、一人が、「このトレイをあげる」と私に言いました。私は、「このトレイを持って行ってくださいでしょ」と言いました。すると、彼は「このトレイを持って行ってください」と言いました。すぐに、別の子が、トレイを折り曲げて、私の袋に入れました。次に子どもたちが、使った箸を袋に入れようしました。私は、「長いままだと袋が破れるから、半分に折って」と言いました。すると皆が、箸を折って、私の袋に入れました。そして彼らはまわりのゴミを拾って、私の袋に入れていきました。たぶん彼らが散らかしたゴミでしょうけれど。一人が「何でゴミを拾ってるの」と私に聞きました。そこで私は、「ゴミがまわりに落ちていたら楽しくないよね。でもゴミを拾って少しでもきれいになったら、その分うれしいよね」と答えました。その子はうなづいていました。

この二つの出会いは、私にとって特別なものでした。しかも同じ週に起こりました。私は、これは神様が、この24節からお話をするときに、語るようにと与えてくださったものだと思います。神様は、私たちが神と共に歩むことを願っておられます。そして、私たちが気づいていなくても、神が私たちを通して愛と善行を行わせてくださいます。ジョギングをしながら。時々祈ります。「神様、あなたは、最初にこの世界を、非常にすばらしいものに造ってくださいました。どうぞ私を用いて、この辺りを、少しでも良いものにさせてください。」

ヘブル 10:25

ある人たちの習慣に倣って自分たちの集まりをやめたりせず、むしろ励まし合いましょう。その日が近づいていることが分かっているのですから、ますます励もうではありませんか。

この箇所は、私たちが礼拝や集会に参加するようにと勧めるだけではありません。私たちが互いに励まし合い、互いのために祈り、互いに配慮するために、集まるべきだと言っています。私たちはここに、礼拝に出席するためだけに集っているわけではありません。他の人が抱えておられる問題や必要を、さらに豊かに、いっしょに神の前に持ち出すためにです。キリストがもう一度来られる日が近づいているからです。

祈り:

父なる神様。あなたは、私たちがイエスを救い主と信じた時に救ってくださいました。そして、新しいいのちの道を開いてくださいました。今、私たちは、あなたがおられるところに、いつでもいっしょにいることができます。私たちをあなたのところに引き寄せてください。私たちがお互いに愛と善行を促すことができるように助けてください。あなたが私たちとともにおられるからです。この世の人々が、あなたの栄光を、私たちを通して見ることができますように。イエスの御名によって。